

# 平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立美原小学校
- 3 報告者：校長 荒川 浩一
- 4 キーワード：「学習習慣定着推進事業」を活用した学力向上の取組



## 1 はじめに

本校ではここ数年の間、「自己肯定感・自己有用感」を高めることが学校経営のベースとして引き継がれ、学力の向上を目指す上でも最も大切なものとして位置付けている。かつては厳しい状況にあった学力は、授業改善を中心に様々な取組を行ってきた結果、少しずつ改善に向かっている。

今年度、更に改善を図るべく検討したところ、学校評価、各種調査の結果等から、主に家庭における学習習慣が身に付いていない児童の伸び悩みが大きな課題として浮かび上がった。そこで、「主体性」をあらたにキーワードとして加え、「授業と関連付けた家庭学習や宿題」を重点の一つとして取り組むこととした。研究をすすめるにあたって、市の指定による「学力向上学習習慣定着推進事業」を活用できたのに加え、同事業の指定を受けた近隣中学校との連携も進められる。まだ緒のついたばかりの取組であるが、その内容とこれまでの成果と課題について紹介する。

## 2 学力向上学習習慣定着推進事業

本事業は、問題データベース教材と学習推進員の配置による宿題を中心とした学習習慣の定着を図り、全体的な学力の向上を目指すものである。発達段階と、学習推進員の業務が午前中に限られることから、現在は3年生から6年生までの取組となっている。

### (1) 学習推進員

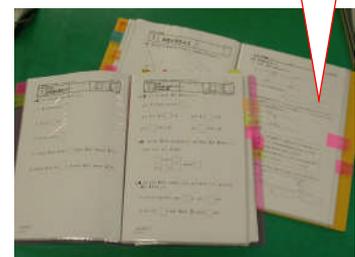
本校には、2名の学習推進員が曜日でシフトを割り振り、それぞれ午前中のみの勤務となっている。いずれも退職教員で、児童と直接かかわることはほとんどなく、宿題の準備とそのチェック及び集計が主な業務である。



	学級担任	コーディネーター (主幹教諭)	学習推進員
朝・1・2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題を集める</li> <li>○学習推進員に提出</li> <li>○全体及び個別対応を必要とする児童の提出状況確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学級の宿題提出状況の確認</li> <li>○学習推進員との情報交換</li> <li>○学級担任と学習推進員との情報の橋渡し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学級の宿題提出状況をチェック(学習チェック表にデータを入力)</li> <li>○ <b>宿題のチェック(採点)</b></li> <li>※(翌日以降の宿題の選択)</li> </ul>
中休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習推進員との情報交換</li> <li>○翌日以降の宿題の選択</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>← 宿題提出及び取組状況の報告</li> </ul>
3・4時間目			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">退 勤</div>
帰りの会まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題の返却</li> <li>○個別の対応を必要とする児童への対応</li> <li>○新しい宿題の配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任との情報交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 翌日の宿題の選択に関しては基本的に担任が進度に応じて選択。問題ベースから、あらかじめプリントアウトしてある原版を上の写真のファイルから選ぶ。</li> </ul>



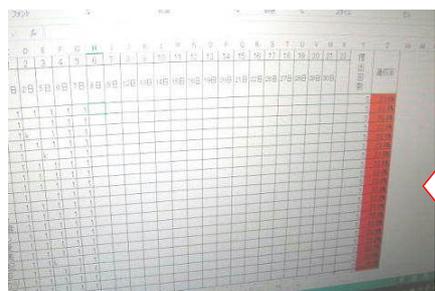
上は学習推進員の1日の勤務の流れとともに、学級担任との連携を示したものである。ここでは必要な情報交流は休み時間(中休み)に行うようになっているが、実際には休み時間も児童と接していることが多い担任と、学習推進員が直接会うことは極めて難しい。したがって学級担任からの要望、学習推進員からの情報提供については互いにメモに記述することによって行われることが多い。情報交換のための時間的な余裕



がないことは大きな課題となる点であるが、現在のところ、コーディネーターである主幹教諭が学級担任、学習推進員双方からの情報を的確に把握し、つなげる大きな役割を果たしている。

## (2) 宿題の内容

この事業にかかわる宿題は現在の所「算数」に絞られている。先に述べたように、その日の宿題に関しては基本的に学級担任が「問題データベース」から選択し、印刷されて児童の手に渡る。問題の内容は基礎・基本的なものから応用問題まで、目的に応じて選択し、活用できる。これは、宿題を作成する担任の労力を大きく削減するとともに、状況にあった宿題を効果的に作成できる点でも大きな意味をもつ。



宿題の提出状況はすぐにPCに打ち込まれ、月末には教育委員会にも提出される。



単なるマルつけだけではなく、必要に応じて数字の書き方の注意や基本的なつまづきに関するコメントを書き添えている。学年によっては、答を記入しないようリクエストする場合もある。

## 3 学力向上学習習慣定着推進事業の成果と課題

### 宿題提出率の推移

### (1) 成果

取組を始めて間もないが、主な成果として次の様な点が挙げられる。

#### ①宿題提出率、基礎計算力の着実な向上

右の表に見るとおり、この取組を通し、宿題の提出率は全クラスで90%を越えるようになった。また、計算などの基礎問題の正答率も着実に上がっている。

	3年生	4年生	5年生	6年生
5月	83.3%	95.3%	91.6%	97.1%
7月	83.8%	94.2%	97.0%	96.7%
9月	92.3%	95.3%	95.8%	95.6%

#### ②働き方改革としての役割

宿題を含む家庭学習の点検は重要である一方、子どもたちと接する時間をできるだけ多く確保したい学級担任にとって大きな問題の一つでもあったが、宿題の作成及びチェックを担う推進員の補助により、大きく改善されたと言える。

### (2) 課題

成果が上がっている一方で、取組そのものの課題と、これまで見えなかった根本的な課題も明らかになった。

#### ①取組の質の向上

提出率の向上に比べ、児童の取組内容は必ずしも順調に向上しているとは言えない。習熟に課題をもつ児童に対し、どのような手だて、時間で対応すべきかが大きな課題となる。

#### ②生活習慣と関連した指導

この取組によって、少数ながら特定の子どもたちが未提出であることが明らかとなり、その差がはっきりと浮かび上がった。その多くが生活習慣の乱れによるものであり、それを改善するための手だての必要性があらためて感じられた。

#### ③学級担任と学習推進員の情報交換の難しさ

この取組は、授業と家庭での学習習慣を結び付けるものとして始まったにもかかわらず、前述のように、学級担任及び算数の少人数学習担当者と学習推進員の情報交換をもつことが、極めて難しい現状にある。

現状では課題も多い取組ではあるが、着実な成果が上がっていることも確かである。特に時間不足が起因となる課題については、職員の連携・協力により改善を図れるよう努力したい。